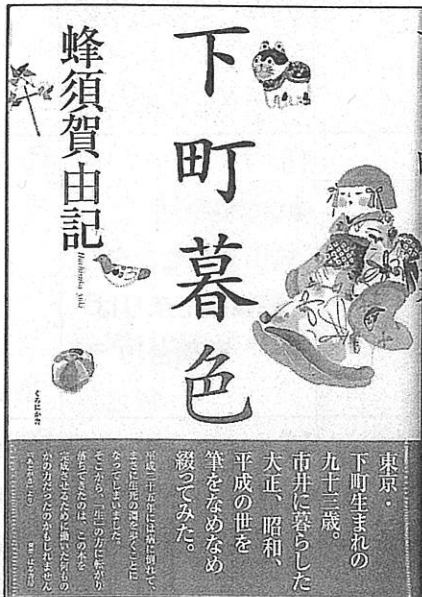
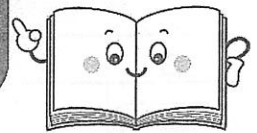


読後会たまりば おすすめ本



作者の長女であり、みのり会員である石坂淑子さんに、お母様の紹介をしていただきました。

生前の母は、俳句、随筆、書道を先生について本格的に勉強していて読書が好きで私が子供の頃から家には本が沢山ありました。また、自己流で絵を描いたり、木彫り等もしていて、「私はやることが沢山あって退屈なんかしない」と言っていました。その中でも随筆は賞をもらったこともあり、文を書くのが大好きで、「私は主婦ではなく、小説家か随筆家になりたかったわ」とよく言っていました。

母は自費出版で3回、本を出しましたが、3回目目に出版した『下町暮色』は、出版社から勧められて書店の店頭並びました。母の思いが少し叶ったのではないかと思います。

令和4年100歳で亡くなりましたが、今回、読後会で取り上げていただき喜んでと思います。

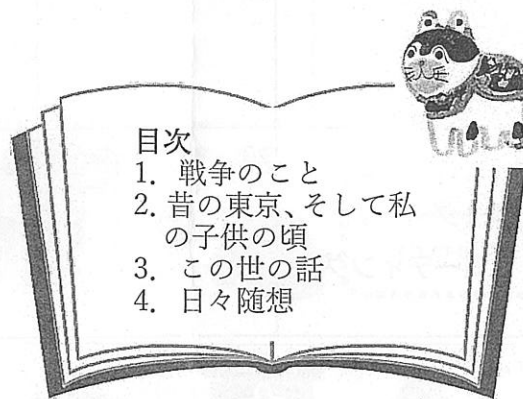
母に代わって感謝申し上げます。

蜂須賀 由記 [ハチスカ ユキ]

大正10年東京都台東区浅草小島町生まれ。嘉悦学園、東京栄養専門学校に学ぶ。

昭和21年運輸省に勤務する蜂須賀國雄と結婚。

昭和45年随筆「十匹の鈴虫」で第24回辰野隆賞。



目次

1. 戦争のこと
2. 昔の東京、そして私の子供の頃
3. この世の話
4. 日々随想



読後会参加者の感想

「下町暮色」を読ませていただいた。93歳の時に書かれたというのでびっくり！昔のこと、鮮明に覚えておいでだ。

出だしは、太平洋戦争、戦時中の生活。千人針なんて懐かしいなあ。そのうち空襲、逃げろ！逃げろ！日ごろの訓練で、逃げていた学校に逃げなくて助かった。逃げたみんなは焼け死んだ。やれやれ、恐ろしい話。

これらが、生々しく書かれている。慌てて疎開。そして終戦。

アメリカ軍が来たら何されるか分からん。その頃の心境が手に取るように書かれている。貴重な記録だなあ。私も思い出してしまった。

後半は、育った下町のことなど。お父さんと聞いたお化けの話やら、ご近所とのお付き合い。

「オツゲキ」なんて聞いたことある？買ってもらったお人形、未だに持っているそう。

唱歌を思い出すねえ。拾い上げた小僧さん。おならが結び付けたお2人。

いやあ、きりが無い。もう読んでいただくしかない。

是非、お手に取って、お読みくださいませ。

〈豊間根 龍児氏〉